

## 1 学校課題

近年、グローバル化が進み、世界の国々の人々と経済や文化などで協力して支え合う機会が増え、国際社会に通用する力が必要とされている。そのような社会情勢の変化に伴い、山梨市は、国際理解教育の一環として、意欲的にコミュニケーションをしようという態度を育てるために英語活動に取り組んできた。

本校は、神社仏閣も残る自然優美な地域にある。近年は、果樹を生かした観光化が進んで道路が新設され、休日ともなると観光客が訪れ活気がある。その一方、農業従事者の高齢化や児童数の減少も見られる。全校児童が、45名と少人数であり保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため、表現することに消極的になってしまいう様子があった。そこで、児童が将来幅広い社会の中で多くの人とコミュニケーションをとり、自信を持って自己実現を図ることができるように、「伝え合う力」の向上をめざして校内研究で取り組んできた。教科内で指導すると共に、少人数の特性を生かして一人ひとりに委員会や諸係での責任ある立場を自覚させるようにした。それと共に、地域の伝統を元にした「岩手小学校太鼓」の発表の場の工夫や児童会の様々な活動の活性化なども、合わせ行ってきた。また、教育課程特例校として4年間、英語科学習を通してコミュニケーション能力の向上をめざし研究を進めてきた。その結果、授業中、ALTなどの話を集中して聞き、自信をもって発音する姿や、自分から友だちに関わりをもとうとする姿に変容しつつある。さらに、地域や学校内でのあいさつが活発になり、外部の方を前にした場や様々な発表の機会でも、萎縮することなく生き生きと活動する児童の姿が増えてきている。

そこで、それらをふまえて、昨年度までの研究の成果を生かしながら、英語科教育を一層進めていくことで、なおいっそうコミュニケーション能力を育むことにつながると考える。

2 研究主題                    コミュニケーション能力の素地を育む英語科学習  
                                    ～4技能の体験的な学びを取り入れた指導の充実～

## 3 主題設定の理由

本校では、平成21年度から、文部科学省指定「教育課程特例校」として、「コミュニケーション能力の向上をめざす英語科学習のあり方」を研究テーマに3年間の研究を行ってきた。昨年度は、山梨北中学校区の他の3つの小学校と共に、「教育課程特例校」として再スタートをすることとなった。これにより、山梨市版学習指導要領に基づいた内容を、1・2年生15時間、3・4年生20時間、5・6年生35時間の年間授業時間で学習することとなった。それまでの3年間の取り組みを基に、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を発達段階において、バランスよく学習していくための授業実践に取り組んだ。

「聞く」「話す」学習では、「ALTの口元を見て聞く」「カタカナ英語の発音とALTの発音の違いを意識して聞く」等、児童が視点を持つことで、集中して「聞く」という意識が高まってきた。ウォーミングアップタイムでは、各学年ごと既習学習を使った会話を仕組んだ。そのことにより、ALTの質問に答えるという受動的な態度から、ALTやJTEに質問をしたり未学習の内容を質問しようとしたりする能動的な態度へと変容が見られた。児童の「聞く」力が身につくに従って、「ALTのように発音したい」という気持ちの高まりも見られるよう

になってきた。そこで、児童が発音しにくい音声を取り上げて指導することで、児童が納得して「読む」学習に取り組むようになった。「書く」学習では、「abc ソング」に合わせアルファベットの読み方と文字を結び付けた上で、児童の「書きたい」という気持ちを大切にしながら、4線上に正しく書く指導を心がけた。電子黒板などを使ったり、授業内容と関連させた単語を書いたりするなど、児童の意欲が持続するような指導を行った。

また、低・中学年で減じた授業時間部分を補い、言語事項の習得を促すために日常生活への既習学習の取り入れ方等についての、様々な取り組みがなされた。そのような4技能の体験的な学びを工夫することで、児童の英語に対する関心意欲が高まり、理解も深まることとなった。さらに、コミュニケーションに対する意欲の高まりも少しずつ見られるようになってきた。

しかし、「発音が上手になった」と自覚する児童がいる一方、「うまく発音できない」「まぢがえると恥ずかしい」と英語を話すことに抵抗があったり、英語に対して消極的な考えを持っている児童も依然いる。その他、評価の見取りの方法や補助簿の内容や形式、英語の日常化やALTの専門性の活用等への取り組みにも、まだ課題が残っている。

それらをふまえ、昨年度までの英語科の研究を土台として、4技能の体験的な学びを取り入れた指導を充実させていくことで、さらにコミュニケーション能力の素地を育むことにつながると考え、今年度も本主題を継続して研究していくこととした。

#### 4 研究の目的

コミュニケーション能力の素地を育むために、英語科における4技能の体験的な学びを充実させるための指導のあり方を追究する。

#### 5 研究の内容

\* 4技能の体験的な学びを取り入れた指導の充実を図る。

- ・教材教具や指導形態、評価などの工夫をする。
- ・4技能の体験的な指導方法を工夫する。
- ・一人一実践を公開し合う中で、英語科の授業力を高める。

\* 評価規準の客観化を図る。

- ・評価規準を、より客観的で具体的な評価規準となるよう見直す。

\* 英語の日常生活に取り入れる取り組みを進める

- ・英語科の授業外の間や方法、内容の工夫をする。
- ・ALTやJTEなどの専門性を有効活用する。

#### 6 研究の方法

<授業研究>

- ・校内授業研究を行い、全学年の授業を公開し合う。
- ・[低学年部会][高学年部会]の2ブロックを基本として、授業研究を行う。
- ・部会研究の内容を交流し合い、共通理解を持つ。

<体験的な学びのための指導の工夫>

- ・各ブロック内等で研究した実践を全体研究に反映させながら、さらに深めていく。

<評価規準の客観化>

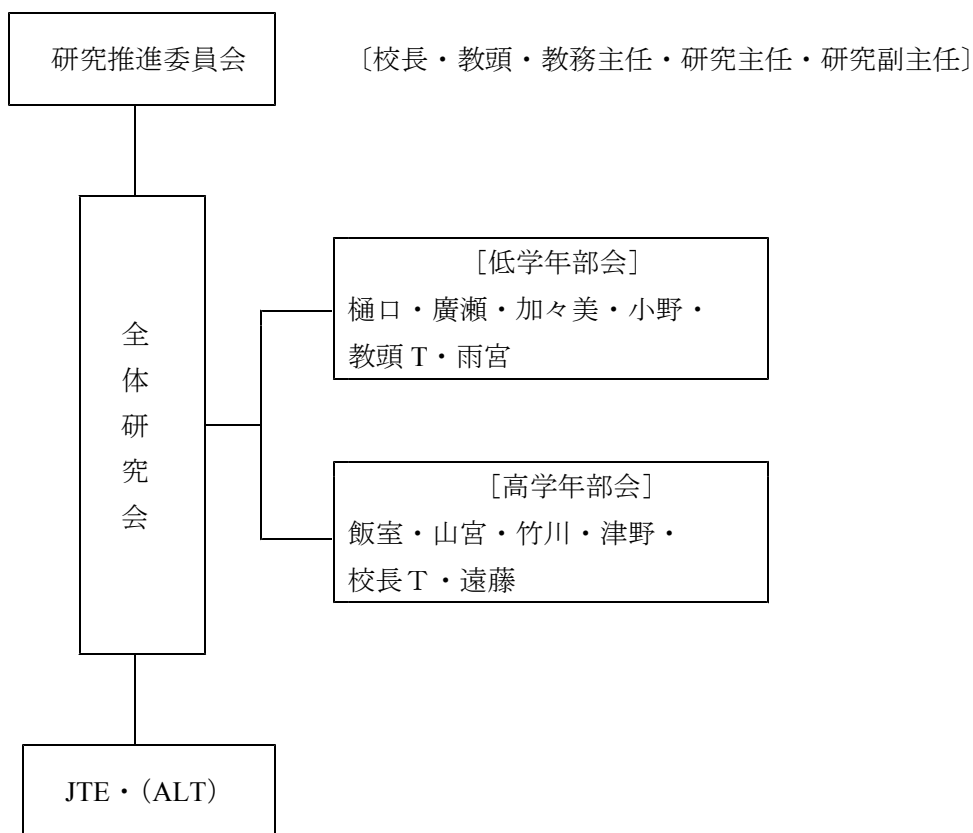
- ・全体研究で学習を深め、方法や形式等の共通理解を図る。
- ・作業については、ブロック内で分担して作成する。

<児童の実態把握>

- ・児童の実態調査を年2回行い、成果や課題を分析したり、意識の変容を見取ったりする。
- ・個に対応した支援のあり方を研究する。

## 7 研究の組織と運営

### (1) 組織



\* 必要に応じて研究推進委員会を開き、校内研究に対する原案づくりを行う。

### (2) 運営

- ①原則として教協研究会のない水曜日にもつ。
- ②全体研究会の司会・記録は輪番制とする。
- ③提案資料は全員分用意し、事前に配布する。
- ④必要に応じて部会研究をもつ。
- ⑤授業研究の日は、水曜日以外の日に計画する場合もある。

8 研究の予定

月	日	曜	回	主な内容	
4	10	水	第 1 回	研究の方向性について	全体
	24	水	第 2 回	校内研究の全体計画について	全体
5	1	水	第 3 回	これまでの研究内容の共有化・ 実態調査について	全体
	22	水	第 4 回	研究内容の共有化・授業について①	全体
	29	水	第 5 回	<b>研究授業①</b>	全体
6	12	水	第 6 回	授業案検討②	全体
	28	金	第 7 回	研究内容に関わっての学習	全体
7	3	水	第 8 回	<b>研究授業②</b>	全体
	31	水	第 9 回	部会研究	部会
8	21	水	第 10 回	後半の研究について・部会研究	全体・部会
10	9	水	第 11 回	授業案検討③	全体
	16	水	第 12 回	授業案検討④	全体
	23	水	第 13 回	<b>研究授業③</b>	全体
	28	月	第 14 回	<b>研究授業(低)④</b>	全体
	30	水	第 15 回	授業案検討⑤	全体
11	6	水	第 16 回	授業案検討⑥	全体
	18	月	第 17 回	<b>研究授業(低)⑤</b>	全体
12	4	水	第 18 回	<b>研究授業⑥</b>	全体
1	29	水	第 19 回	実態調査について	全体
2	19	水	第 20 回	実態調査結果について 研究の成果と課題について	全体
	26	水	第 21 回	来年度の研究の方向性	全体
3	5	水	第 22 回	研究紀要作成	全体

9 研究の実際

(1) 教育課程の編成

平成 25 年度教育課程表 (1 単位時間を 45 分とした場合の標準時数)

	各教科の授業時数										道徳	外国語活動	総合	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	英語					
1年	306	/	136	/	87 -15	68	68	/	102	15 +15	34	/	/	34	850
2年	315	/	175	/	90 -15	70	70	/	105	15 +15	35	/	/	35	910
3年	245	70	175	90	/	60	60	/	105	20 +20	35	/	50 -20	35	945
4年	245	90	175	105	/	60	60	/	105	20 +20	35	/	50 -20	35	980
5年	175	100	175	105	/	50	50	60	90	35 +35	35	0 -35	70	35	980
6年	175	105	175	105	/	50	50	55	90	35 +35	35	0 -35	70	35	980

○英語科を創出するために、次のように授業時間を設定する。

- 1・2年 … 生活科の 15 時間を削減する。
- 3・4年 … 総合的な学習の時間の 20 時間を削減する。
- 5・6年 … 外国語活動の時間をあてる。